

健康と障害、包括的社会

健康の定義

WHO 憲章では「健康とは、肉体的、精神的及び社会的に完全に良好な状態であり、単に疾病又は病弱の存在しないことではない。」と定義されている。

国際生活機能分類 (ICF) …障害者以外も含む全人類に適応する

健康状態：(病気、けが、妊娠、高齢など)

心身機能・身体構造：(～～部骨折、～～麻痺、失語症、機能障害など)

生命の維持に直接関係する、身体・精神の機能や構造で、これは心身機能と身体構造とを合わせたものである。心身機能とは、たとえば手足の動き、精神の働き、視覚・聴覚、内臓の働きなど。身体構造とは、手足の一部、心臓の一部（弁など）などの、体の部分のこと。

活動：(個人・生活レベルのこを果たすこと / 家事、職業、趣味 etc)

生活行為、すなわち生活上の目的をもち、一連の動作からなる、具体的な行為のこと。

これはあらゆる生活行為を含むものであり、実用歩行やその他のADL（日常生活行為）だけでなく、調理・掃除などの家事行為・職業上の行為・余暇活動（趣味やスポーツなど）に必要な行為・趣味・社会生活上必要な行為がすべてはいる。

またICFでは「活動」を「できる活動」（「能力」と「している活動」（「実行状況」との2つの面に分けて捉える。

参加：(社会・集団レベルで役割を果たしたり、仲間入りする / 主婦、部長 etc)

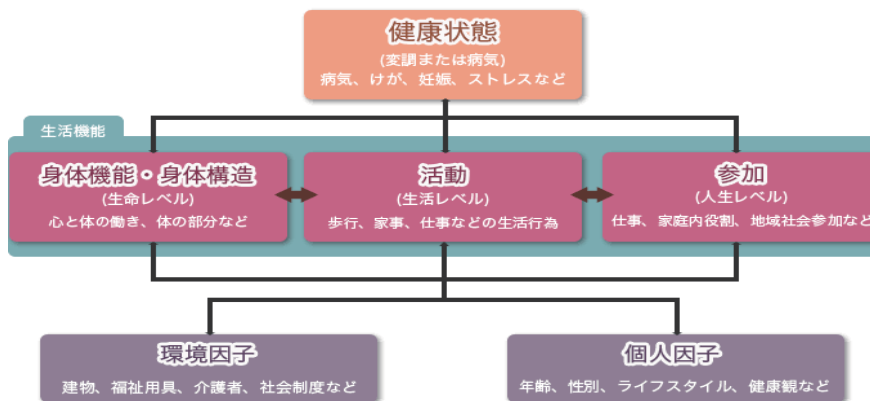
家庭や社会に関与し、そこで役割を果たすことである。

社会参加だけではなく、主婦として、あるいは親としての家庭内役割であるとか、働くこと、職場での役割、あるいは趣味にしても趣味の会に参加する、スポーツに参加する、地域組織のなかで役割を果たす、文化的・政治的・宗教的などの集まりに参加する、などの広い範囲のものが含まれる。

環境因子：(住んでいる場所、環境、法律など)

個人因子：(年齢、性別、性格など)

※障害があっても、その人のできる側面にも焦点を当てた考え方



国際障害分類（ICIDH）

分類 → 機能障害（生物学的機能レベルの障害）

能力低下（個人の生活レベルの障害）

社会的不利（社会生活レベルの障害）

※障害の負の側面から分類するやり方

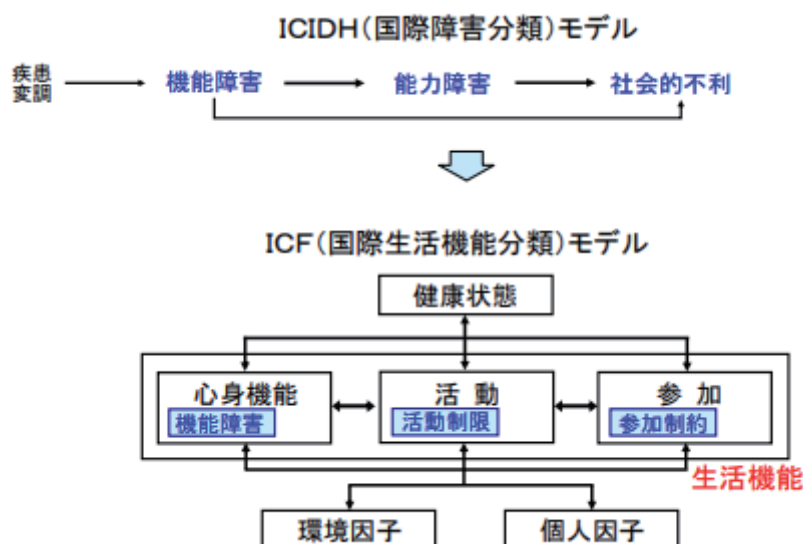
ICF と ICIDH の違いについて

ICF は各レベルで、プラスを前提として、そこに問題が生じた状態（マイナス）をみるのであり、「マイナスをプラスの中に位置づけてみる」ことである。

これは下図に ICIDH と ICF を対比して示すように、根本的に異なる点である。

(1) ICIDH はマイナスの3つのレベルの関係だけを見る。

(2) ICF は3つのレベルのそれぞれにおいてプラスとマイナスの両方をとらえ、同一レベルの中でのそれらの相互関係を見る。また異なったレベルの間のプラス同士、マイナス同士、またプラスとマイナスとの間の複雑な関係を見る。



ノーマライゼーション

障害のある人もない人も、互いに支え合い、地域で生き生きと明るく豊かに暮らしていける社会を目指すこと。

ソーシャルインクルージョン（社会的包摂）

「全ての人々を孤独や孤立、排除や摩擦から援護し、健康で文化的な生活の実現につなげるよう、社会の構成員として包み支え合う」という理念。

「包摂」「包含」「共生社会」などのキーワードが関連する。

インクルーシブ教育

インクルーシブ教育システム (inclusive education system) とは、人間の多様性の尊重等を強化し、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能にするという目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組みのことである。そこでは、障害のある者が一般的な教育制度 (general education system) から排除されないこと、自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられること、個人に必要な「合理的配慮」 (reasonable accommodation) が提供されること等が必要とされている。